

3 特区を活用したGXの推進

◆ GX・金融コンソーシアム「Team Sapporo-Hokkaido」(チーム札幌・北海道)

Team Sapporo-Hokkaidoは、日本の再生可能エネルギー供給地や、GXに関する資金・人材・情報が集積するアジア・世界の「金融センター」を実現することを目的に、令和5年(2023年)6月に北海道や札幌市をはじめとした産学官金の21機関で設立しました。国が今後10年で実行するとしている150兆円ともいわれるGXに関する官民投資のうち約40兆円を北海道・札幌に呼び込むべく、GX関連産業の集積と、それを支える金融機能の強化集積を進めるため、規制緩和の検討や、環境金融人材・GX人材の育成、国内外への情報発信などに取り組んでいます。

◆ 北海道・札幌「GX金融・資産運用特区」

Team Sapporo-Hokkaidoの取り組みを加速させるため、北海道と札幌市は共同で「北海道・札幌「GX金融・資産運用特区」」を提案し、令和6年(2024年)6月に金融・資産運用特区の対象地域として決定されました。

特区の主な内容

地元の主な取り組み	国の主な取り組み
ビジネス環境・生活環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・GX産業集積や金融機能の強化集積のための道税・市税の税制優遇の検討 ・ビジネス・暮らしの英語ワンストップ相談窓口の開設 	規制の特例措置 <ul style="list-style-type: none"> ・洋上風力発電設備の設置・保守に係る外国籍船の利用 ・圧縮水素の貯蔵量上限の緩和 ・日本参入時の法人設立に伴う手続きに関する英語対応 ・スタートアップへ投資する外国人投資家向け在留資格の創設 ・銀行によるGX関連事業に対する出資規制の緩和
誘致活動・情報発信の強化、スタートアップ・人材育成の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・海外資産運用会社などの誘致強化 ・GX事業を行う企業の誘致強化・ビジネスマッチング拡充 ・スタートアップ創出・育成強化、ビジネスマッチング拡充 ・GX情報プラットフォームの構築、GX事業認証制度の創設 ・人材確保・人材育成の強化、情報発信などの強化 	全道域のGX産業の振興 <p>※規制の特例措置は国家戦略特区を活用</p>

◆ 国家戦略特区

国家戦略特区制度は、成長戦略の実現に必要な、大胆な規制・制度改革を実行し、「世界で一番ビジネスがしやすい環境」を創出することを目的に創設されました。令和6年(2024年)6月に北海道は新たに国家戦略特区に指定され、これにより、創業、外国人材、観光、雇用など幅広い分野の規制改革メニューを活用するとともに、新しい規制改革の提案を行いながら、さまざまな取り組みを進めていきます。

北海道では、GXや金融に限ることなく、より一層ビジネスがしやすい環境を整えるため、新しい規制改革のアイデアを募集しています。皆さまがお気づきのことや、規制改革のアイデアがありましたら、ぜひご意見をお聞かせください。

アイデア募集



道では、これらの取り組みを通じて、経済と環境が好循環する持続可能な地域社会を構築していきます。

特集2 に関するお問い合わせ / 道庁ゼロカーボン産業課 TEL.011-206-9094

広告

ドローンフィールド北海道を目指して

広大な森林や田畑が広がり、人口密度が低い北海道は、国内で最もドローンが飛ばしやすい環境にあり、技術革新や、新たなサービス・産業の創出の先進地となることを目指しています。

北海道で普及するドローン

これまで空中はヘリコプターなどに限られた領域でした。ドローンは、化石燃料を使わないほか、価格が安い、操作が簡単なもののメリットがあり、新たなツールとして急速に普及しています。



農業を散布するドローン



風車を点検するドローン

実証事業で可能性を拓く

空中で定位置に留まり、現場映像を瞬時に送れることから、測量、建造物の点検、観光用の空撮にも使われるドローン。現在、防災や野生動物対策、宅配などさまざまな分野での活用や、積雪寒冷条件下での利用など生活に役立てる実証事業が進んでいます。

地域おこし協力隊 Café 栗山町

都会に住む人が課題を抱える市町村に移住し、才能や能力を発揮する地域おこし協力隊。今回は、IoTを生かした農業に取り組む栗山町の隊員を紹介します。

得意分野のIoTを生かし、ビニールハウス内の遠隔監視型デバイスを開発!

栗山町に「まちの未来を開拓する担い手づくり」を目的としたファブラボ(多様な工作機械を備えた実験的な地域工房のネットワーク)が誕生することを知り、地域おこし協力隊に応募しました。着任後は得意分野のIoTを生かして、ビニールハウス内の温度や湿度を測定する遠隔監視型のデバイスを制作し、いつでもどこでもスマートフォンやパソコンでハウス内の様子をデータで可視化できるシステムを開発しました。これからもIoTを生かした農業を継続し、栗山町の農業全体のさらなる活性化に携わっていければと考えています。

神奈川県逗子市出身 **鈴木 敦文さん**

ほっかいどう地域おこし協力隊ロゴマーク




実際に農家を訪問し、課題の解決に取り組む様子

ドローンサミット

令和6年(2024年)
開催日 **10.1(火)~2(水)**
開催場所 札幌コンベンションセンター
(札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)

「ドローンサミット」を北海道で初開催! ドローンの展示や飛行実演、操縦体験、国内最大規模のドローンサッカー大会などを実施します。誰でも無料でご入場いただけます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。



道庁デジタルトランスフォーメーション推進課 TEL.011-204-5172

新たな視点で学びを深める道内の高校生の話題をお届けします。

高校生のマナビバ

「ナナイロひだか高校生応援プロジェクト」日高振興局では、高校生の郷土愛を育み、地元で活躍したいと感じてもらえるような人材の育成・選流を目指しています。今年度は振興局職員がSDGsをテーマとして、静内高等学校2年の生徒18名に年間20時間程度の授業を行います。



静内高等学校2年 山崎 倅喜さん(左) 森 晴海さん(中) 村田 奏音さん(右)

みんなでSDGsに取り組んで、身の回りの環境を改善したい。

カードゲームでSDGsの基礎を学ぶワークショップに参加し、みんなで取り組めば身の回りの環境も改善していけると感じました。また、自分じゃ何もできないという考えを捨てるのが大事だと気づきました。SDGsは堅苦しいイメージがありましたが、今回の授業はととても楽しく、今後もぜひ参加したいと思います。



ワークショップの様子
日高振興局地域政策課 TEL.0146-22-9070

広告